



Micro Focus Net Express 4.0 J
IBM WebSphere Application Server 6.0 動作検証
検証結果報告書

平成 17 年 10 月 17 日

マイクロフォーカス株式会社

1. 検証概要、目的及びテスト方法

1.1 検証概要

Micro Focus Net Express 4.0 J の Enterprise Server が提供する J2EE Connector 機能は、多くの J2EE 準拠アプリケーションサーバーについて動作検証がなされています。WebSphere については、現在 WebSphere Application Server 5.1 で検証済みとなっています。

本報告書は、WebSphere Application Server 6.0 での J2EE Connector の接続性を検証し、報告するものです。

1.2 目的及びテスト方法

Micro Focus Net Express 4.0 J の Enterprise Server が提供する J2EE Connector は、現在 IBM WebSphere Application Server 5.1 との接続が動作保証されています。一方、WebSphere 6.0 は、JCA1.0 / JCA1.5 の両方のアダプターをサポートしており、WebSphere 5.1 用に開発された J2EE1.3 準拠のアプリケーションに対して互換性を保っていますので、Micro Focus の既存のリソースアダプタはそのままで動作するはずですが、今回、以下のテストプログラムを実行することによって、このことを実際に検証しました。

- 1) 通常の COBOL プログラムのディプロイと、EJB 経由の JCA 呼び出し
- 2) DB2 照会プログラムのディプロイと、EJB 経由の JCA 呼び出し
- 3) DB2 更新プログラムのディプロイと、EJB 経由の JCA 呼び出しにおけるコンテナ管理トランザクション

2. 使用ハードウェア及びソフトウェア一覧

Dell Dimension 4700C Intel Pentium 4 3.2GHz

Microsoft Windows 2000 Service Pack 4

Micro Focus Net Express 4.0 J + All WebSync WrapPack 4.0.005

IBM Web Sphere Application Server 6.0.0.1 Build o0445.08

DB2 Universal Database Linux V8.2 (FixPak 7)

3. テスト内容

以下に実施したテストの概要を述べます。

詳細な手順については補足 1～3 に記載します。

3.1 通常の COBOL プログラムのディプロイと、EJB 経由の JCA 呼び出し

(1) 使用した COBOL ロジック

COBOL の索引編成ファイルから指定されたキーのレコードを READ しその内容を返す、簡単な COBOL サブルーチン。Enterprise Server へはすべてデフォルトの指定でディプロイした。

(2) 使用したリソースアダプタ

mfcobol-notx.rar (トランザクションなし)

(3) 使用した Enterprise Server

既定義の ESDEMO をそのまま使用した。

(4) 使用した J2EE クライアント

Net Express の Interface Mapping Toolkit がディプロイ時に自動生成する EJB と、自動生成される Web モジュールクライアントを使用した。

3.2 DB2 照会プログラムのディプロイと、EJB 経由の JCA 呼び出し

(1) 使用した COBOL ロジック

DB2 の sample データベースのテーブルから指定されたキーのレコードを SELECT しその内容を返す、簡単な COBOL サブルーチン。Enterprise Server へはすべてデフォルトの指定でディプロイした。

(2) 使用したリソースアダプタ

mfcobol-notx.rar (トランザクションなし)

(3) 使用した Enterprise Server

既定義の ESDEMO をそのまま使用した。

(4) 使用した J2EE クライアント

Net Express の Interface Mapping Toolkit がディプロイ時に自動生成する EJB と、自動生成される Web モジュールクライアントを使用した。

3.3 DB2 更新プログラムのディプロイと、EJB 経由の JCA 呼び出しにおけるコンテナ管理トランザクション

(1) 使用した COBOL ロジック

DB2 の sample データベースのテーブルの指定されたキーのレコードを、指定された値で UPDATE する、簡単な COBOL サブルーチン。別途、入力パラメタの値に応じて意図的にアプリケーション例外を発生させることができるもの。

Enterprise Server へは、コンテナ管理トランザクションの指定でディプロイした。

(2) 使用したリソースアダプタ

mfcobol-xa.rar (XA トランザクションのサポート)

(3) 使用した Enterprise Server

既定義の ESDEMO に、DB2 用の XA トランザクションスイッチモジュールを、XA リソースとして追加登録し、これを使用した。

(4) 使用した J2EE クライアント

Net Express の Interface Mapping Toolkit がディプロイ時に自動生成する EJB と、自動生成される Web モジュールクライアントを使用した。実行後、DB2 コマンドプロンプトから、該当する DB2 テーブルのレコードへの更新が、予期されたとおりに COMMIT/ROLLBACK されているかを確認した。

4. 結果

上記の3点のテストを実行した結果、すべて正常に実行されることを確認しました。詳細な結果については、別紙（補足1～3）に記載します。

5. テスト結果及び考察

最新の J2EE 標準をサポートする IBM WebSphere Application Server 6.0 で、既存の Micro Focus Server Express 4.0 J の J2EE Connector 接続を問題なく使用できることが検証できました。これをもって、弊社の正式な動作保証といたします。

以上